



内の小学生からあいさつの標語を募集したところ、全部で264点も集まった。その中から選考した最優秀賞・優秀賞作品を、プレートやのぼり旗として地域の至る所に掲示した。活動の成果を聞くと、「子どもたちはもともと挨拶をしてくれていたで、むしろ変わったのは大人」と語り、開始から6年が経過して、最近では散歩中に地域の人の言葉を交わす機会が増えたことを教えてくれた。「あいさつは人付き合いの基本中の基本」と語る彼は、とにかく人間関係を一番大切に、地域で顔が見える関係づくりを進めている。

地域の防犯は自分たちの手で

平成27年度からは地域の防犯活動を強化するため、車による青色防犯パトロール活動をスタート。西三島地区では以前から20人を超えるボランティアが、登下校中のスクールガードとして活動していたが、「さらに活動を線から面へ展開するために車を導入した」のだという。車両の導入費などは住民や地域の事業所などの寄付で賄い、維持費は年3回の集団資源回収で得られる収入でやり繰りしている。パトロールは二人がチームを組んで、当番制で地域を巡回しており、現在は10チームが活動している。「活動を始めてから今

汗をかき、まず行動する

自治会独自で子育てサロンを開催し、多世代の交流の場としたり、いきいき百歳体操を毎週実施し、高齢者の介護予防に取り組んだり、いくつもの取り組みを継続して展開する西三島地区。平成25年度の地域マップ作りや、その翌年のごみステーション美化コンテストなど、過去に実施してきた事業は数えきれない。それほど多くの活動を展開する方法について尋ねると、「まずは自治会の役員が汗をかくことが大切。たくさん汗をかいて、頑張っている姿を見ると、住民は自然と協力をしてくれるのです」と秘訣を教えてくださいました。



住民主役の地域づくり

高齢化、アパート居住者の増加、役員の担い手不足など、自治会が直面する課題は山積みだ。しかしそんな中、逆境を跳ね返そうと、奮闘している自治会もある。生きがいサロンに子育てサロン、いきいき百歳体操や青色防犯パトロールなど、年間280日もの活動を行っている西三島自治会だ。加入世帯数1,100を超える自治会のトップに立つ橋本氏に話を聞いた。

大切なのは人とのつながり

「長年この地域を見ていて、少しずつ人間関係が希薄になっていくのを感じていました」。平成23年度から西三島地区の自治会長となった橋本氏は、就任当時をそう振り返った。昨今の自分さえよければいいという風潮には違和感があり、人は互いに支え合いながら生きていくと確信する彼は「人と人とのつながりと郷土愛によるまちづくり」をモットーに7年間力を注いできた。「高齢者に対する活動は以前から充実していたが、子どもたちを巻き込むような活動は少し足りない気がしていました」。そんな彼が自治会長になった翌年から取り組んだのは、地域の子どもたちからあいさつの標語を募集する「三島地区『愛』さつ運動」だ。地域の三島小学校を巻き込み、自治会



西三島自治会 橋本 秀晴 会長



12 地域を巡回する青色防犯パトロール活動。週2・3回、下校する子どもたちを見守っている。34 子育てサロンには、この日「ころまる」も参加。音楽に合わせて踊ったり、ボールプールで遊んだり。5 笑顔がこぼれるいきいき百歳体操。みんなが顔を合わせるこの機会を、参加者は心待ちにしているそう。

